

コートジボワール

【国名】

- 14 世紀頃、フランスの船乗りが訪れるようになり、この地方で象牙（仏語でivoire(イボワール))の取引を始めたことに由来(Côte d' Ivoire:「象牙海岸」の意)。

【国旗】

- オレンジは国の繁栄と北部の肥沃なサバンナ地帯、白は平和、清純、国民の協調と団結、緑は将来への希望と南部の森林地帯を象徴する。



コートジボワール国旗

【国是】

- 団結 (Union), 規律 (Discipline), 勤労 (Travail)

【国土】

- アフリカ西部ギニア湾に面する沿岸国。面積は日本の約 0.9 倍 (322, 426 km²)。首都はヤムスクロ。人口は約 2, 429 万人。



【西アフリカの経済拠点】

- コートジボワールは、伝統的にカカオ・コーヒーの一大生産地。特に、同国最大の輸出品目であるカカオは世界第1位の生産量であり、世界全体の約3分の1を占める。



- コーヒーの生産量は世界第15位で、主にインスタントコーヒー用に加工されるロブスタ種のコーヒーが栽培されている。



- カカオ・コーヒーの輸出に支えられ、大規模な港湾及び空港を有する経済都市アビジャンは、西アフリカの重要な拠点として多くの日本企業の関心を集めている。



【石油・鉱物資源】

- 1993年より石油生産が開始され、石油の精製が行われ、石油・石油関連物資が輸出されている。オフショアに開発可能な鉱区が複数存在し、鉄、金、ニッケル、ボーキサイト等多様な鉱物資源の今後の開発が期待されている。

【ユネスコ自然遺産】

国内8ヶ所の国立公園のうち、コモエ国立公園、タイ国立公園、ニンバ山地自然保護区は、ユネスコの自然遺産に登録されている。

- コモエ国立公園（1983年登録。自然遺産，危機遺産。）

西アフリカ最大の自然保護区の一つ。北部のサバンナ地帯にありながらも、通常南部の亜熱帯地域に植生する巨木類がみられる。

- タイ国立公園（1982年登録。自然遺産。）

リベリアとの国境地帯に位置しており、熱帯雨林が存在。絶滅の危機に瀕しているカバの他少なくとも11種類の希少な猿類が生息しており、科学的にも貴重な場所。

- ニンバ山地自然保護区（1982年登録。自然遺産，危機遺産。）

ギニア，リベリアとの国境付近のサバンナ地帯にそびえる西アフリカ有数の山（標高1,752m）。豊かな植物・動物相を擁する。付近に生息するチンパンジーは、石を道具として使用することでも有名。

【ユネスコ文化遺産】

● グラン・バッサムの歴史地区

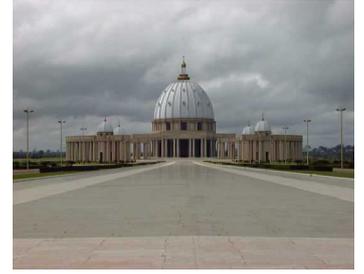
1893年から1896年まで仏領コートジボワールの最初の首都であったグラン・バッサムは、ギニア湾岸にあるフランス人が建設した植民都市。コートジボワールで最も重要な港であり、経済、司法の中心地であった。2012年に世界文化遺産に登録されたグラン・バッサムは、西洋人とアフリカ人の社会的な関係を今に伝える貴重な文化遺産である。

● タグバナ族の横吹トランペット

2001年5月、アフォンカファのグボフェ（タグバナ族の横吹トランペット音楽）は、文化空間、伝統的知識、口承による伝統、芸能、伝統音楽、儀式及び祭礼等の無形文化遺産を対象とした「人類の口承及び無形遺産の傑作」として、我が国の能楽等19件とともに、世界初のユネスコ世界無形文化遺産の一つとして指定された。

【バジリク大聖堂】

- 故ウフェ・ボワニ初代大統領の故郷でもある首都ヤムスクロ（実質的な首都はアビジャン）に、ローマのサン・ピエトロ寺院の規模に匹敵するバジリク大聖堂が建設され（1986年着工，1989年落成），1990年9月には，ヨハネ・パウロ2世を迎えて盛大なミサが行われた。



【コロゴ布】

- セヌフォ民族が得意とする，細かい手織りの布（綿製）に動物や精霊のモチーフを手書きした織物。そのモチーフには，ピカソも影響を受けたというが，現在のコロゴ布のモチーフは逆に，ピカソの画風の影響を受けているとされている。



【サッカー・コートジボワール代表】

- コートジボワール（象牙海岸）の名前に由来する「エレファンツ」の愛称で親しまれているコートジボワール代表はアフリカ屈指のサッカー強豪国。2010年南アフリカW杯，2014年ブラジルW杯と連続して出場した。
- 特に，ディディエ・ドログバ（英チェルシーなどで活躍。2018年引退），ヤヤ・トゥーレ（ギリシャ・オリンピアコス）等が有名。
- かつて日本代表監督を務めたフィリップ・トルシエ氏は，1989年から，コートジボワールのA S E C ミモザ・アビジャンで監督をしたほか，1993年には，コートジボワール代表監督も務めた。また，前日本代表監督のヴァヒド・ハリルホジッチ氏は，2008年から2010年までコートジボワール代表を率いた。

【活発な地方自治体交流】

- 岐阜県岐阜市，関市及び神奈川県横浜市が東京オリンピックにおけるコートジボワールのホストタウンに登録されている。
- 岐阜市では，2009年に設立されたNPO法人「ぎふ・コートジボワール」が，市民から寄付された運動靴をコートジボワールへ届けるという活動を実施。この活動をきっかけに，岐阜市とコートジボワールの交流が続いている。
- 横浜市は，2017年にアビジャン自治区と連携を深めており，両自治体関係者の往来等活発な交流が行われている。また，2018年にはシステム開発会社のヨコハマシステムズがアビジャンに支店及び現地法人を設立。日本製の中古タイヤの販売等の事業を行っている。

(了)